

## 血液透析施行中の緊急離脱訓練について

三友会 あげぼのクリニック 臨床工学課

○大水 剛(オオミズ ツヨシ), 桃園 嘉貴, 村山 順子

### 【はじめに】

血液透析治療中に、火災・大地震などの災害が起きたとき、必要に応じて治療を中止し、直ちにその場から離れる必要が生じた場合を想定した訓練を、患者様とスタッフ共に行なうことが重要と思われる。今回、当施設の緊急離脱訓練マニュアルを見直し、患者様とスタッフに説明会と訓練を行なった内容を報告する。

### 【方法】

1. スタッフ向け説明会を、必ず全員参加することを目的に2回に分けて開催した。
2. 患者様向け説明会を、各クールの入室時間の30分前に集合して頂き、待合室のテレビをプロジェクターの代わりとして用いて、質疑応答を含め約30分間行なった。
3. 離脱訓練は、透析終了後に血液を回収し、A・V留置カテーテルを抜去せずに保持し、患者様へ、復習としての説明を再度行ない、その後実際に患者様に行なって頂いた。
4. 訓練の手技をチェックし、患者様が一人で出来るか評価した。
5. 使用した離脱セットは、株式会社アグリスの「透析用緊急離脱セット」である。
6. 説明と訓練に対して、患者様にアンケートを実施した。

### 【離脱手順】

1. 透析中の患者様に対し、「緊急避難です！」と、大きな声で伝える。(スタッフ)
2. 各透析装置の電源を切る。(スタッフ)
3. クランプ付き血液回路のA・V側をそれぞれクランプする。
4. 透析用緊急離脱セットを取り出し、クランプと透析装置の間に鉗子を掛ける。
5. クランプと鉗子の間をハサミで切断する。
6. 透析用緊急離脱セットの本体を腕に巻く。
7. 上履きを履いて避難する。

### 【集計結果】

緊急離脱説明会の参加率は69%。アンケートの回収率は29%。5段階評価で「良い」が最も多かった。緊急離脱訓練の実施率は27%。手技の合格率は35%。血液回路のクランプが扱い難いようであった。

### 【まとめ】

透析施行中の緊急離脱の手技について、各施設によって様々な方法があり、どれが正しいとかではなく、その施設で決められた方法で、日頃からの訓練が非常に重要であると思う。